

テーマA 「地区での持続可能なバス検討体制づくり」 モデル地区(作手)での実施内容

○作手地区の特徴

つくであしがる線：Sバスの中で、年間利用者が最も少なく、補助金の要件を一部の曜日・便では満たさなくなっている。

経済圏が独立：新城市内他地区とは標高差があり、新城市街から車で30分ほどかかる位置にある。それゆえ、地区内で一定の買物・医療ができる経済圏を有している。

作手地域まちづくり計画：昨年10月に策定された作手地区の独自計画。この計画に基づき住民主体のまちづくりを目指した取り組みを進めている。

○作手地区の公共交通に関する現状

バス利用者：現在、バス利用者の多くは、以前、豊鉄バス路線が走っていた時から乗っていた方である。そうした方たちはバスの乗り方や便利さを知っているため利用している。

また、つくであしがる線の南部方面の利用が多いのは「改善センター前」でゲートボールが開催されており、その利用で移動しているからである。

バスの利用が少ない場所：中河内や岩波といった地域では利用が少ない。その理由としては元々、バスが通っておらず、バスの乗り方や便利さを知らないことが考えられる。

バスに対する考え方：地区の高齢者の多くが、現在は車に乗っているため利用していないが、数年後には使わなければいけないという考えを持っている。しかし、そうした方の中には乗り方を知らないという方もいる。

○地区でバスを考える際の課題

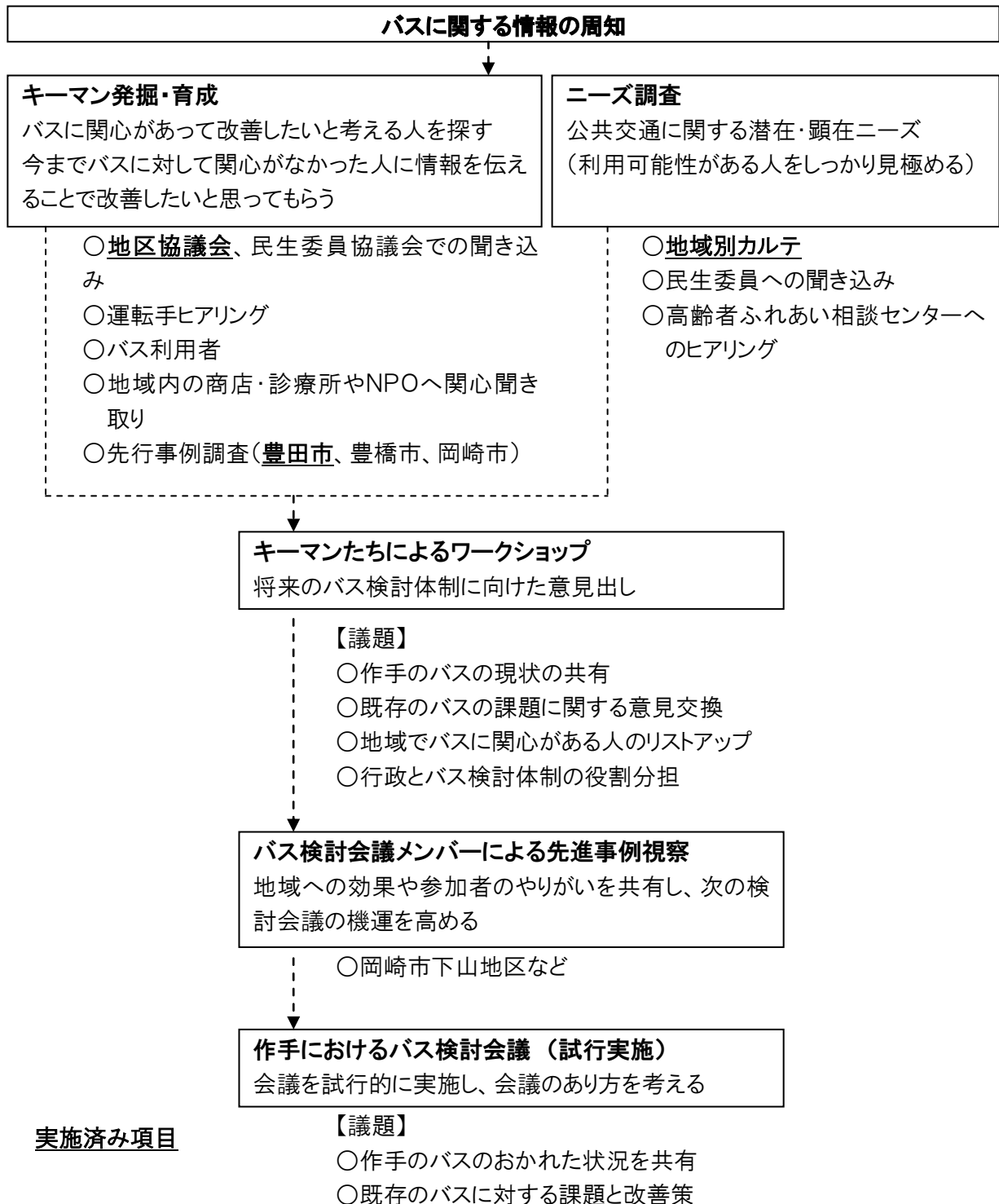
- ・公共交通に関する認知度が低い
- ・公共交通に関するニーズの把握が不十分
- ・地区内でバスに対して関心を持ち改善したいと考えている人（キーマン）の発掘・把握ができていない

○作手地区で持続可能な検討体制を作るために

- 1 地区の人にバスのことを知っていただく
- 2 地区が抱える潜在・顕在ニーズを把握する
- 3 バスに対して関心を持ち改善したいと考えている人（キーマン）を発掘・育成していく

○テーマAの進め方

作手支所や作手地域協議会などと協議をしながら、以下のような調査・議論を進め、作手地域で持続可能なバス検討体制について考えていく。



テーマB「高校・観光と連携した公共交通のあり方」実施内容

○観光・高校に対して公共交通が抱える課題

○観光

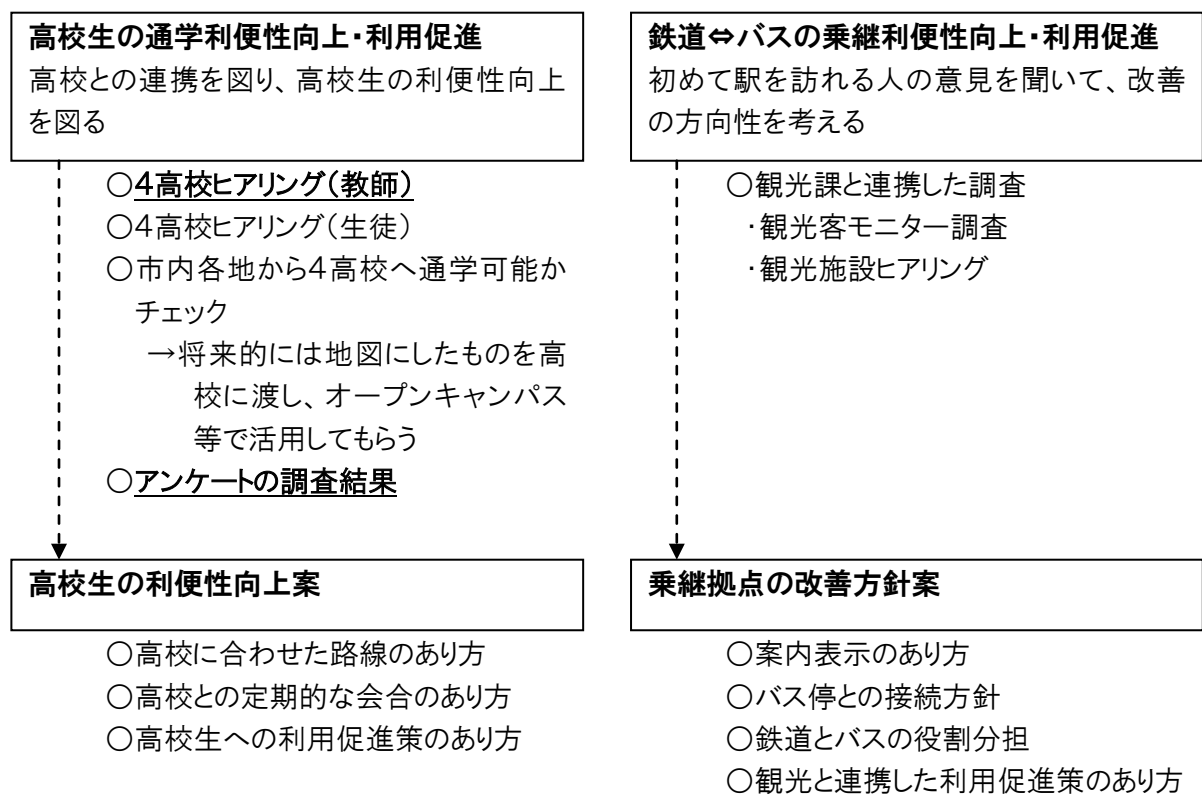
- ・鉄道とバスの乗継の利便性が不十分
- ・新城駅や本長篠駅など現在、乗継を行っている駅はバス停までのアクセスが悪い

○高校

- ・それぞれの地区の高校生がバスでどれだけの高校に通えるのかの把握がなされていない

○テーマBの進め方

高校や観光課などと協議をしながら、以下のような調査・議論を進める。



実施済み項目